

# 都市の場・地域と流通・消費

小島道裕

Urban Sites and Districts: Consumption and Distribution

はじめに

## ①都市の場と消費

## ②流通・消費の場と地域

〈付論〉旅籠の代金について

### 〔論文要旨〕

都市の場における消費は、その主体によっていくつかに区分することができる。例えば、宿泊する外来者は、都市における消費者だが、都市の住人ではない。

中世都市においては、a Ⅱ都市の核とその構成員、b Ⅱaに付随する従者、商職人などの都市住民、c Ⅱ外来者ないし流入者、という区分が可能であり、こうした区分や相互の関係は、具体的な都市域構造の中にさぐることができる。

次に、地域全体における都市ないし中心地の分布と変遷を考えると、一五世紀を境に大きな変化が認められる。市場法の発布状況、京都への物資の流入状況、地方市場の盛衰など、いくつかの問題を考慮すると、この間に流通自体の大きな変動があったと判断される。

そしてそれは、近年明らかにされてきた、一五世紀代に集落の移動と固定化が認められる事実と符合し、その結果成立した新しい地域と中心地網を基盤にした流通シス

テムの成立が、一六世紀における市場等の叢生およびその淘汰と城下町への集中をもたらしたと考えられる。

以上のような区分と歴史の変遷が、作成されつつある「都市生活史データベース」からどのように分析されるかが期待される。